

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）
留学結果報告書

令和 6 年 6 月 2 日

山梨県知事 殿

本人氏名 宮下 留維

次のとおり留学の成果を報告します。

留 学 先 国 名	アメリカ合衆国
学 校 等 名	Carroll County High School （ヴァージニア州）
留 学 期 間	令和 5 年 8 月 21 日 ～ 令和 6 年 5 月 3 日
私には将来、医師になりたいという夢があります。臨床だけでなく、現代の医学ではまだ解明されていない難病に関する研究者になりたいと思っています。その実現のためには、日本に留まらず広く海外の大学や研究機関で仕事に携われるようになる必要があると考えています。この夢の実現に向け、まず今できることは、英語によるコミュニケーションスキルの向上です。私は以上のような理由から、海外留学を決意しました。 本稿では、留學生活における「ホストファミリーとの生活」と「学校生活」といった二つのコミュニティの視点から実績を報告します。 ■ホストファミリーとの生活 私の留学先はアメリカ東部、ヴァージニア州の Hillsville というカントリーサイドの町でした。ダラス国際空港で飛行機を乗り継ぎ、グリーンズボロという空港から更に車で一時間ほどの距離にある町です。ホストファミリーの家族構成は六人で、子供は私と同年の男子高校生、9 歳と 6 歳の女の子、それから生まれたばかりの男児といったにぎやかな家族でした。家の周囲は見渡す限り草原と森ばかりで、隣の家は車で 10 分走らないと見えてこないような自然豊かな場所でした。ただ、私の生まれた家も同じような田舎なので、環境には大きなギャップは感じませんでした。 そんなロケーションだったので、私のコミュニケーションの相手はホストファミリーと学校の友人、先生が主な対象でしたが、別の言い方をすれば、それらの人々とは濃い人間関係を築けたと思います。 ホームステイ先での生活で強く印象に残っているのは冬の厳しさです。真冬には氷点下 10 度以下になることも少なくなく、学校までのスクールバスが運行できずに休校	

になることも珍しくありませんでした。雪が降った日にはファミリーの女の子たちの手を引いて、家先の斜面でソリ遊びをしたことも良い思い出です。

■学校生活

私が通った学校は地元の公立高校でした。同学年の生徒数は200人ほどで、私が山梨で通う学校とほぼ同じ規模です。学校は朝8時30分から1時限が始まり、午後3時過ぎには全ての授業が終了します。

登校初日は渡米した翌々日でした。とても不安な気持ちと開き直りとが入り混じった複雑な心境で登校したことをよく覚えています。既に新学年がスタートしていたこともあり、私は転校生という扱いでした。日本の学校でよくあるように、まずは先生からの紹介があって自己紹介するものだと思っていましたが、そういった流れは全くなく、何事もなかったようにクラスの一員として扱われました。正直、拍子抜けしたことをよく覚えています。

東アジア系の生徒はクラスメートだけでなく学年を見渡しても私一人だけでしたが、皆ごく自然に接してくれました。人種差別で嫌な思いをしたことは一度もありません。ただ、最初の頃は会話をしても私の話した内容がなかなか通じず、何度も聞き返され、ヘコんだことも少なくありませんでした。

私がアメリカの高校に留学したのは、海外の大学に出願するために必要な単位を取得することが理由のひとつでした。そのためにはAPカリキュラムと呼ばれる国際的に通用する単位を取得する必要があったため、それに必要な科目を中心に履修しました。またアメリカの学校では課外活動も必要とされますが、私はその一環でコロンビア大学によるオンラインプログラムに参加しました。このプログラムで私が受講したクラスは「医学の細胞分子生物学」というものでした。このクラスではコロンビア大学の医学教授の講義を受講することができ、個人的な面談やレポートを提出することで、多くの学びと大学での医学の一端を経験することができました。なおこの課外授業には高額な受講料が必要でしたが、予定外の出費をしてくれた両親にはとても感謝しています。

学校生活では部活動にも参加しました。できれば幼少の頃から続けている空手か、他の武道にチャレンジしたいと思っていましたが、残念ながらそれらの部活動はありませんでした。代わりに私が選んだのは陸上競技です。専門は1600m走や3200m走といった中長距離でした。授業が終わった後の午後4時から6時までが活動時間で、この部活動を通じて多くの友人をつくることができました。部活動の成果としては、帰国直前に開催された地区の競技大会にて、1600m走で約50人中2位という成績を収めたことです。アメリカ生活での良い思い出のひとつとなりました。

最後に留学を通じての一番の収穫は、視点の違いについての重要性を学ぶことができたことです。多角的にものを見ることが大事なのは理解していたつもりでしたが、文化が異なる環境の中に身を置くことによって体験とともに学ぶことができたのは大きかったと思います。

また、全くの他人の家族と過ごすというの大きな経験でした。生活様式や家庭のルーティーンの相違からのカルチャーショックも多く、時として我慢しなければならないこともありました。そういった経験の一つ一つが、留学で学びうる大事な要素だと思います。

この度の海外留学は、私にとって夢の実現に向けた第一歩となりました。ご支援いただきまして、ありがとうございました。

■学校にて



■ホストファミリー宅より



■ホストファミリーとの旅行より

